

白神山地における有料案内業務を実施して

鱈ヶ沢営林署 ○収穫係長 成田 敏
 森林官 佐藤 和広
 基 職 対馬 久雄

1 始めに

鱈ヶ沢営林署管内は、青森県津軽半島七里長浜の南端に位置し、国有林野管理面積は23,777haである。

2 課題を取り上げた背景

白神山地は、平成2年森林生態系保護地域に、平成5年12月には世界自然遺産に登録されたことにより、広く人々に知られるところとなり、入山者も年々増加傾向にある。

鱈ヶ沢営林署では、平成6年度に地元の地域住民を対象に実施したアンケート調査で白神山地の現地案内をするガイドが必要という意見が多数寄せられた。

また、県道「岩崎・西目屋・弘前線」（以下白神ラインという）を通る車の方々からも「地理不案内で山に入れない。白神の良さに直接触れられるところはないか」「案内してくれる人が欲しい」ということを度々耳にしたところである。

このような声を背景とし、7年度夏山において、有料による案内業務を実施したもので、実施方法、利用者の反響等その実施結果について発表する。

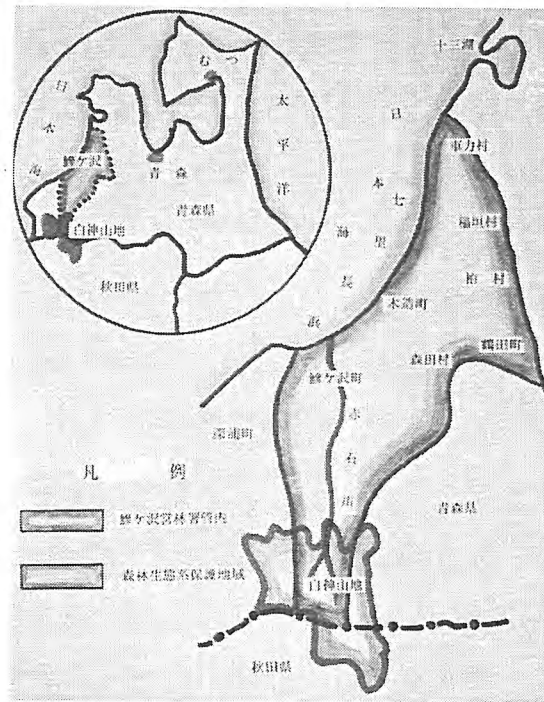


図-1 鱈ヶ沢営林署管内位置図

3. 案内業務を開始するまで

(1) コース選定について

コースは世界遺産地域の外側で、危険箇所がなく誰でも歩ける場所、白神の自然の良さを十分味わえ、それぞれが特徴あることを前提に三コースを選定した。

◆一ヶ所目は「くろくまの滝コース」で、ここは日本の滝100選に選ばれている高さ85mの滝で、駐車場から徒歩15分の距離にある。

◆二ヶ所目は「ブナ遺伝資源保存林コース」で、ブナ遺伝資源保存林のなかに自然観察道をつくり、直接ブナ林に触れることができる一周約60分の周回コースであり、ここは森林生態系保護地域と同質の原生的なブナ林で、世界遺産地域の疑似体験でき

る場所となっている。

◆三ヶ所目は「天狗見晴らし台コース」で、天狗峠から天狗岳に至る尾根の歩道上にあり、片道約60分で行ける森林生態系保護地域の、原生的ブナ林の景観を遠望するコースである。

(2) 案内料金について

料金については、案内人1人につき10,000円とし、入山者10名まで案内人1名、以降10名毎に1名増員とし、障害保険料は別途に頂くこととし50名まで2,400円と設定した。

(3) 待ち合わせ場所標柱の製作について

入山者との合流を現地としたことから、目印として職員手作りの標柱を県道傍に設置した。

(4) 記念品の作成

ブナの枝を輪切りにしたワッペンを作成し、記念品として準備した。



写真-2 手作りの標柱

(6) パンフレットの作成等

PRのためパンフレットを作成し、「麻布グリーン会館」等を通じてのPR活動を実施した。



写真-1 ブナ遺伝資源保存林内

(5) 案内人のための勉強会

案内は、主として種里森林事務所に所属する基幹作業職員が当たり、署内の植生に詳しい者を講師とした勉強会を、現場職員を対象に3回、署内職員を対象に2回実施し、その後営林局インストラクターの指導を受けた。

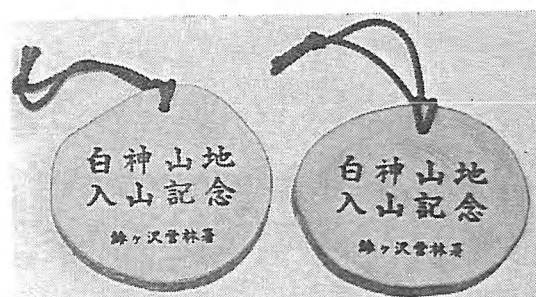


写真-3 ブナの記念ワッペン

4 実施結果について

実施までの手順及び結果について説明する。

資料請求があり次第、詳しい資料と案内申込書を送付し、その後相手から申込書・案内料金等を送金していただき、コースのアドバイス、待ち合わせ場所の確認等を行い、森林事務所に連絡し準備を整える。

当日は、待ち合わせ場所で相手の確認、案内者の自己紹介、注意事項等を説明したのち案内に入り、最後に記念品のワッペンを渡し案内の終了である。

なお、今年度は案内回数14回、利用者数199名、案内人は延べ22名で、基職20名、定員内2名が当たり、22万円の収入となった。

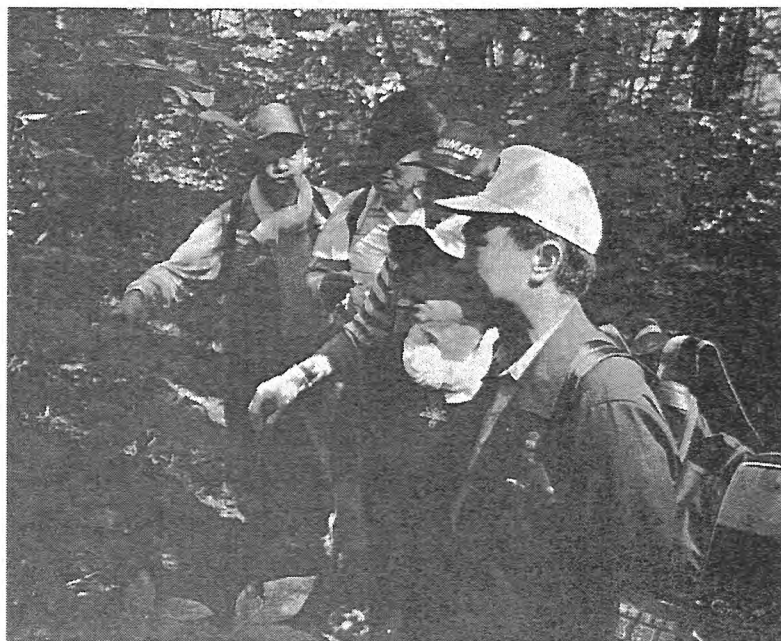


写真-4 ガイド状況

5 申込書をもとにした入山者の傾向等

男女別では、回答なしを除き女性が63%。年齢別では、男女とも40代が多く、61才以上の高年齢者層も19%を占めている。

表1 男女別・年齢別入山者数

(単位：人)

年齢区分 男女区分	～20	21～ 30	31～ 40	41～ 50	51～ 60	61～ 70	71 以上	計	回答 なし	計
男	3	4	8	22	15	9	5	66	7	73
女	5	14	12	17	16	12	1	77	49	126
計	8	18	20	39	31	21	6	143	56	199

次に県内の地区別、県外、職業別入山者ですが、93%が県内からの入山者で、その中の47%が東津軽郡・青森市を中心とした青森地区からの入山となっている。ついで弘前地区となっており、圧倒的に都市部からの入山が多くなっている。

職業別では、回答なしの53名を除いた146名についてみると、30%が会社員、ついで教職員の16%の順となっております。その他、職場の仲間、趣味を同じくする同好会の入山が多い傾向となっていることが明らかとなった。

表2 地域別・職業別入山者数 (単位：人)

地区別 職業別	県内						県外					計
	青森地区	弘前地区	西五地区	三比地区	下北地区	小計	岩手県	埼玉県	東京都	神奈川県	計	
学生	1	2	1	2	0	6	0	0	0	0	0	6
会社員	16	11	1	8	1	37	1	0	4	2	7	44
公務員	3	0	1	0	0	4	0	1	0	0	1	5
教職員	8	14	2	0	0	24	0	0	0	0	0	24
団体職員	8	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	8
医療関係	1	20	0	0	0	21	0	0	0	0	0	21
農業	0	1	0	4	0	5	0	0	0	0	0	5
自営業	4	0	2	0	0	6	0	0	0	0	0	6
サービス	1	6	1	5	0	13	0	0	0	1	1	14
主婦	3	2	2	1	0	8	0	0	5	0	5	13
小計	45	56	10	20	1	132	1	1	9	3	14	146
回答なし	48	5	0	0	0	53	0	0	0	0	0	53
小計	48	5	0	0	0	53	0	0	0	0	0	53
計	93	61	10	20	1	185	1	1	9	3	14	199

6 アンケート調査結果から

次に入山者のうち62名の方の協力を得て、アンケート調査を実施した結果では、有料ガイドを何で知ったかという質問に、44%の方が新聞と答えている。

これは案内業務の紹介記事が各紙に掲載されたことによるもので、その他職場の情報、知人の紹介など口コミによるものが多いことも特徴となっている。



写真-5 ガイド関係新聞切り抜き

表3 有料ガイドを何で知ったか

(単位：人)

新聞	テレビ ラジオ	その他						回答 なし	計
		職場の 情報	知人の 紹介	書籍	登山カ ル ブ内報	営林署 で	小計		
25	4	9	8	7	1	1	28	2	57

今回の三コース以外にもコースが必要かとの問いには、森林生態系保護地域の保全利用地区内に必要という声が16名、反対にあまり設けなくてもよいという少数意見もあり、今後に残された課題である。

表4 既設のコース以外のコースの必要性

(単位：人)

森林生態系保護地域 (保全利用地区内)	水のおいしい ところ	津軽峠方面	小計	回答 なし	計	あまり設 けなく てもよ い
16	1	1	2	1	19	2

車道・林内の環境の評価については、58名の方から回答があり、その内55%の方が大変きれいだと、35%が道路沿いは大体こんなものと答えており、車道付近のゴミ問題について疑問が残ることとなった。

表5 林道・県道・林内の環境について

(単位：人)

大変きれいだと	道路沿いは大体こんなもの	空き缶やゴミが目立つ	空き缶やゴミがひどく目立つ	回答なし	計
32	20	6	0	4	62

その他、保護制度の規制では、90%が現状維持か、それ以上の規制を望んでおり、案内料金については、79%が現状でよいと答えている。

その他の意見では、大変よい制度なのでもっとPRすべき、営林署の苦労や努力が感じられた、また、案内人に対するの評価もよく、参加された方々には案内業務全般にわたり、好評を得た結果となっている。

表6 その他の意見

- 1 ガイドについて大半の人は知らない。もう少しPRした方がよい。
- 2 日本中でブナ林を知りたいと思っている人が多いと思う。正しいブナの観察をするためにはガイドという方法はとてもよいと思う。他県にも知らせてほしいと思う。
- 3 体中の酸素が入れ替わったような感じで、大変よかった。
- 4 ブナ林内に道をつけたりするなど、営林署の方の苦労や努力が感じられた。
- 5 今度は家族できたいと思う。
- 6 山の名前の入ったパノラマ写真を有料で販売してほしい。
(案内者が虎の巻として携帯している切り張りの山の名前入りパノラマ写真を見ていることで、このような要望がでたものと思われます。)
- 7 お土産まで頂きとてもうれしかった。
(これはブナの枝で作った輪切りの記念ワッペンのもので、多くの方々から喜ばれております。)
- 8 白神の自然の風景等を説明してもらったり、木や草の名前を聞くことができ勉強になった。
- 9 案内人はとても親切。大変素朴で結構な案内だった。
- 10 大事にしたい場所。入山者に規制する方向で厳しすぎるくらいのきまりを設けてもよいと思う。

7 案内人の資質の向上

案内に当たった現場職員からは、植生に興味もなく名前が分からない。言葉にも不安があり、本当に自分でお客さんを相手に説明できるだろうかという懸念の声もでていたが、数回にわたる勉強会や現地で案内を進めるうちに、自分で図鑑を買い求め自ら勉強するという積極的な姿勢にかわり、幅広い自然観察を通じそれを共通の話題とするまでにレベルが向上していった。

また、植生が趣味の一つになったという職員も出てきている。

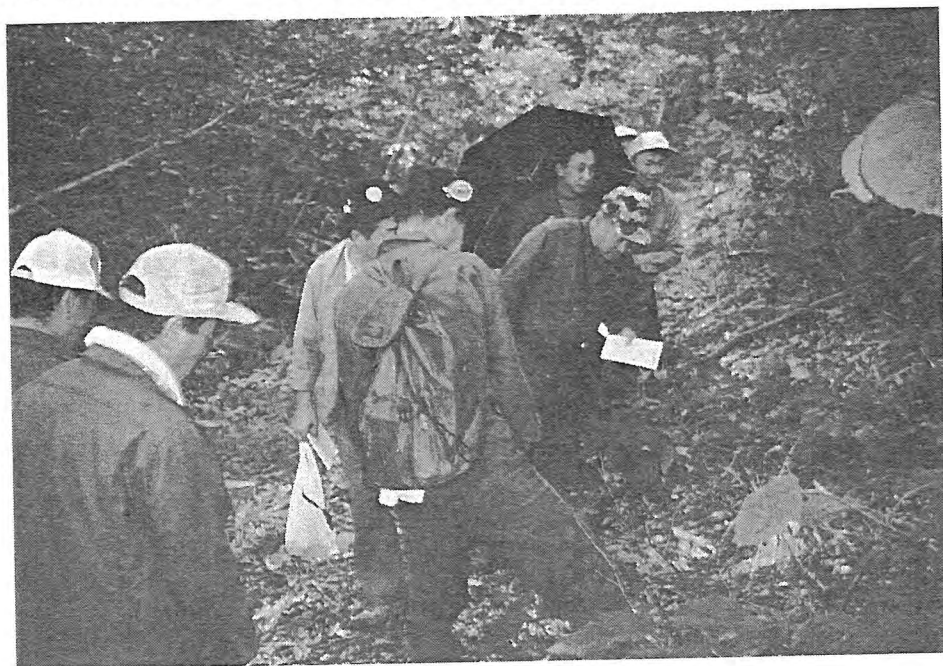


写真-6 森林インストラクターによる勉強会

8 終わりに

始めて実施する有料案内業務ということもあり、試行錯誤を重ね実施に踏み切ったわけであるが、公表と同時に問い合わせ・資料請求の電話が連日あり反響の大きさに驚いた。

案内人は回数を重ねるごとに、自信をもって説明にあたり、当初の心配はまったくなく、結果として参加者から大変好評を得ることとなった。

案内業務を通じて、国有林野事業のPR、入山者のマナーの向上、森林の重要性についての認識の向上等が図られたものと思われる。

今回の案内業務が好評であったのは、国民の自然に触れてみたいという自然指向への強い欲求があること、白神山地という知名度、それに鱒ヶ沢営林署挙げての取り組み、案内に当たった種里森林事務所基幹作業職員の、真摯な態度によるものであり、新規事業としては成功したと言える。

今年度の反響から判断し、今後さらに入山希望者が増加することは確実であり、また国有林野事業の新たな業務の一つとして定着化する可能性を秘めていると思われる。

来年度に向け、更に案内人の資質の向上と、装備の充実を進め、案内業務の更なる発展に向け職員一同努力してまいりたい。